



## 1. 第27回全国大会・開催報告（2019年10月5日(土)、東京大学）

2019年10月5日(土)、東京大学大学院情報学環 福武ホールにて、第27回全国大会が開催されました。ご参加頂いた多くの方々、開催に当たりご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。以下にて、大会プログラムの概要をご報告いたします。

- ◆開会式：9:40～ 開会挨拶：大会副実行委員長 本田正美
- ◆午前の部 研究発表会：9:50-11:40
  - <情報と教育>（会場：福武ラーニングスタジオ 1）
  - <情報と経済>（会場：福武ラーニングスタジオ 2）
  - <情報文化の諸相>（会場：福武ラーニングスタジオ 3）
- ◆基調講演：13:00～14:10（福武ラーニングシアター）  
講 師：生貝直人（東洋大学経済学部総合政策学科 准教授）  
テーマ： オンライン・プラットフォームと法政策  
— EU デジタル単一市場戦略と我が国の状況を中心に —
- ◆総会：14:20～14:50（福武ラーニングシアター） 報告：須藤 修（情報文化学会 会長）
- ◆午後の部 研究発表会：15:00-16:30
  - <AI と情報文化>（会場：福武ラーニングスタジオ 1）
  - <情報とデバイス>（会場：福武ラーニングスタジオ 2）
  - <情報と社会>（会場：福武ラーニングスタジオ 3）
- ◆閉会式：16:40～16:50 会場：福武ラーニングシアター 閉会挨拶 須藤 修
- ◆交流会：17:00～18:50

## 2. 第27回 通常総会のご報告

第27回通常総会（議長：須藤 修 会長）において、以下の報告がなされ、議案（審議事項）が承認された。

### 1. 第1号議案 2018年度事業報告案および収支決算案に関する件

事業報告案（2018年度全国大会の開催、委員会・支部・部会の活動、学会誌の発行、ニュースレターの発行、会員数の状況）

### 2. 第2号議案 2019年度事業計画案および収支予算案に関する件（下記）

事業計画案（2019年度全国大会の開催、委員会・支部・部会の活動、学会誌の発行、ニュースレターの発行、学会賞の贈賞、会員数について（2019年9月時点））

### 3. 第3号議案 役員改選に関する件

定款19条に基づき、会員の推薦により、2019年10月6日から2021年全国大会当日までを任期とする理事及び評議員の選任案を提案され、役員会で承認された（下記）。

2018年度 収支決算書（自2018年4月1日 至2019年3月31日）

省略（総会当日は回覧のみ）

2019年度 収支予算書（自2019年4月1日 至2020年3月31日）

収入の部 科 目	予算額 (単位：円)
1. 入会金・会費	1,600,000
2. 広告協賛金	0
3. 大会参加費等	300,000
4. 学会誌抜き刷り料	80,000
収入合計	1,980,000

支出の部 科 目	予算額 (単位：円)	備考
1. 印刷製本費	1,200,000	学会誌・予稿集他
2. 事務処理費	50,000	
3. 通信費	60,000	サーバ管理費他
4. 発送費	120,000	学会誌封入発送費他
5. 交通費	70,000	
6. 研究・会議費	50,000	支部活動・委員会等
7. 消耗品費・雑費	20,000	
8. 全国大会運営費	200,000	
会場会議費	100,000	
支出合計	1,870,000	

新学会役員（任期2019.10.6~2022.10.大会当日）

No.	理事 担当業務	担当者
1	学会長	須藤 修（中央大学 教授）
2	名誉会長	片方善治（高崎商科大学 客員教授）
3	学会誌編集委員長，中部支部長	吉田友敬（名古屋文理大学教授）
4	学会誌編集副委員長	平澤洋一（広島大学 客員研究員）
5	総務委員会委員長，選挙管理委員会委員長，全国大会副実行委員長	本田正美（東京工業大学 研究員）
6	会計委員会委員長・会員管理委員会委員長	大久保博樹（駿河台大学 教授）
7	支部・研究部会総括，北海道支部長	伊藤直哉（北海道大学大学院 教授）
8	関東支部支部長，学会誌編集委員	稲垣秀人（城西国際大学 講師）
9	近畿支部支部長，学会誌編集委員	稲垣耕作（国際情報学研究所 所長）
10	九州支部支部長	飯村伊智郎（熊本県立大学 教授）
11	ニューズレター編集委員長，広報委員会委員	辻本 篤（北海道大学大学院 教授）
12	データベース委員会委員長	遠山茂樹（高知大学 教授）
13	学会誌編集委員	松永公廣（Learning Media 工房）
14	学会誌編集委員	安田孝美（名古屋大学大学院 教授）
15	顕彰事業選考委員長，MOT 部会部会長	安岡寛道（野村総合研究所 上級研究員）

No.	評議員 担当業務	担当者
1	東北支部支部長	堀川三好（岩手県立大学 教授）
2	中部支部副支部長，学会誌編集委員	浦田真由（名古屋大学大学院 講師）
3	関西支部副支部長	横山 宏（大阪電気通信大学大学院 准教授）
4	九州支部副支部長	渡辺祥郎（国際システム研究所 主任研究員）

5	全国大会プログラム委員会委員長	山下倫範(立正大学 教授)
6	データ管理委員会委員長	寺本卓史(城西国際大学 教授)
7	国際研究交流委員会委員長, 学会誌編集委員	李 穎清(城西国際大学 准教授)

No	担当業務	担当者
1	会計監事	坂本眞一郎(常葉大学 教授)
2	会計監事	藤本孝一郎(城西短期大学 准教授)

須藤議長の進行の下で議事が進められ、第1号議案、第2号議案、第3号議案、いずれも全会一致で承認された。

### 3. 2019年度 支部・部会報告

#### ・北海道支部 研究会

開催日時：2019年5月25日(土) 13:00~16:00, 会場：北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院

#### ・関東支部 研究会

開催日時：2019年8月29日(木) 13:00~16:30, 会場：東京工科大学 八王子キャンパス

#### ・中部支部 研究会

開催日時：2019年12月14日(土) 13:00~16:30, 会場：名古屋大学情報学研究科

#### ・九州支部 研究会

開催日時：2020年2月11日(火・建国記念日) 12:55~16:30, 会場：鹿児島医療技術専門学校 平川キャンパス

### 4. 第28回全国大会開催のご案内

第28回全国大会は2020年10月17日(土)に開催いたします。発表のエントリー方法、発表原稿等の受付方法は下記をご参照ください。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

#### 4.1 統一テーマ、会場について

\*統一テーマ：未定

\*日程：2020年10月17日(土)

\*プログラム：開会式、研究発表、基調講演、総会、閉会式、交流会

\*会場：オンラインでの実施を基調に現地開催について検討中(現地開催の場合は、都内で実施)

※現地で開催する場合、会場は決定次第、学会ウェブサイトにて告知予定

\*大会参加費：5,000円(一般会員), 3,000円(学生会員・参事会員), 5,000円(非会員)

\*交流会費：5,000円(一般会員), 3,000円(学生会員・参事会員), 5,000円(非会員)

#### 4.2 発表のエントリーについて

##### (1) エントリー期間/受付先

①受付期間：2020年7月1日(水)~8月3日(月)

\*注意：この期間以外での受付は一切致しません。

②受付先：taikai@jouhou-bunka.jp (全国大会 発表申込・受付担当 宛)

③申込方法：エントリー時に発表予稿論文を提出

(2) エントリー資格について

- ① 著者のうち少なくとも一名は本学会の会員である必要があります。
- ② 学部生や大学院生が第一著者や登壇者になることは妨げませんが、その場合には、エントリー時に指導教員の連絡先も対応責任者の連絡先と合わせて届出して下さい。
- ③ 一人で複数の発表の第一著者や登壇者になることは認めません。

(3) 提出物：「発表予稿論文」

- ① メール本文に「対応責任者の連絡先」を明記して下さい。  
※以後のやりとりは対応責任者の方と行います。
- ② 提出後の変更は一切受け付けません。  
※発表の順番・時間帯についての希望は受け付けません。

(4) 発表予稿論文について

- ① 原稿の様式：A4 で 2 枚～4 枚 「MS-Word 版」と「PDF 版」、両方を提出
- ② 形式は自由。カメラレディ版での提出をお願いします。
- ③ 提出原稿につき、形式上・内容上で本大会の趣旨から著しく逸脱したものと実行委員会が判断した場合には、発表を受け付けません。

## 5. 『情報文化学会誌』への論文投稿

<各号の締切日>

各巻第 1 号への投稿：3 月 15 日(消印有効)

各巻第 2 号への投稿：7 月 10 日(消印有効)

詳細は、学会ウェブの「学会誌」のページ、および下記の URL をご参照ください。

(<http://jouhou-bunka.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/11/tokokitei180511.pdf>)

### 「JICS 便り」名誉会長 片方 善治 — デジタル環境の進化と情報文化学 —

情報文化学は、理念系、人間系、施設系によって構成されている。いま注目されているのは、施設系の進化—AI, IoT, クラウド, 5G による進化—である。従来の理念系をふまえて、この進化が人間系にどのような影響を与えるのか、ここが学会としての関心事になると考えている。わが国においては、2020 年 3 月から 5G サービスが開始されたが、当初は 4G の交換機を流用してネットワークを構築するので、本格化は 21 年以降になると予想されている。それはともかく、20 年はギガビット級の無線回線による運用で、顧客にはレンタル型のメニューが提供される。また導入コストの低減のためにクラウドが活用される。人間系の考察が求められるのは、ここに記した活用を情報文化学の立場からの検討である。そのポイントは、ヒューマンウェアというコンセプトによって取り組むことであろう。会員の皆さんは、上記について、どのように受けとめるでしょうか。いずれにせよ、関心をもって頂くことを期待しています。